



# 日本画のある暮らし 心とむ故郷の風景

目にやさしい色調で、対象物が浮かび上がるように表現される遠藤氏の日本画。  
花鳥画、風景画ともに、余白がもたらす静かな詩情を感じ、その緻密で繊細な画風が観る人の心に響きます。  
匠・夢フェスタでは、遠藤氏の数々の逸品をご覧いただけます。オーダーもお受けいたします。

## どんな図柄が多いのですか。

**故郷の風景、自宅を描き入れる要望に添えて**

京都に住んでいるので、京都や滋賀、奈良の風景画が多いですね。何年も出展している「匠・夢フェスタ」では、オーダーもお受けしています。土地柄、近江の絵が喜ばれています。ご希望のサイズはもちろん、絵の一部を変えたり、抜き出して小さな作品にすることも可能です。

最近、故郷の風景を描き入れるご要望をよくお聞きします。絵に故郷の風景が入ること、より親しみをもっていただけるのかもしれない。お客様ご自身で構想図を持っていらっしゃることもあり、難しいですが完成して喜ん



長浜のN様邸に飾られている扁額。



実際の下絵。



奥に見える雪を被った山は伊吹山。ご自宅を含め、周辺の思い入れのあるお寺や建築物も描かれたオリジナルの秀逸作品です。代々お子様に受け継がれてゆく大切な逸品として喜ばれています。

## 屏風・額装の魅力とは？

**和室はもちろん、洋室でもモダンに彩飾。**

屏風は、玄関や客間などの装飾性と間仕切りや目隠し、風よけなどの実用性で古くから親しまれてきました。生活様式の洋風化で、和室が少なくなる傾向がありますが、意外にも日本画の屏風や額装は洋室でもよく合います。屏風のある空間にいと、不思議と心が穏やかになり、落ち着いた気持ちになるのは、日本人の持つ共通の何かがあるのではないのでしょうか。

## どのようにして作品は生まれますか。

**構図選び、色の濃淡や描画方法、すべての工程が本番そのもの。**

思い浮かべたものをラフに描き、その中からこれというものの小下絵を作ります。そして、作品と同じ大きさの下絵を作り、それを本紙に写して描きはじめます。下絵を作る段階で、仕上がりイメージしているのですが、実際に

描いてみなければわからない部分も多くあります。すでにある材料や見本のようなものを、自由に並べたり、比べたりして考えることができる。迷いが生じたときは、思い切つて絵から離れると、後から時間を置いて見たときに、それまでは躊躇していたことを思い切つてできたり、よい解決法を思い切つてできたり。作品を描き進める過程での様々なドラマが、作品に奥深さを投影するのもかもしれません。



源氏物語をテーマに創作された美しい屏風絵。存在感のある調度品として人気の作品です。



屏風・額装  
遠藤 晃 氏

昭和46年 京都教育大学「特修美術科」日本画卒業  
平成16年 フランス・パリ「美の解放展」in ルーブル受賞  
平成17年 日・EU交流記念アートカレンダー 2005認定  
シェル美術賞展・京展・関西展・日春展  
新制作春季展等入選

2012 匠・夢フェスタに5日間実演